

歯科の基礎を

アップデートしよう!

武蔵小山どうぶつ病院 矢中 雄一郎

第6回 抜歯



はじめに

今回のテーマは抜歯ですが、とても数ページに収まる内容ではないので、サンディエゴで教わって特に役に立った技術を重点的にお話していこうと思います。抜歯は痛みを伴う外科手術ですから、前回お

話した疼痛管理も非常に重要です。抜歯が上手くいかないといライラするし麻酔時間も延びるといい事はありませんよね。今回の内容が皆さんのお役に立てば幸いです。



抜歯の流れ

1) 同意を得る

明らかに抜かなければならない歯があった場合でも、飼い主の同意を得てから抜歯をすべきです。事前に説明し同意を得ることももちろんですが、当日処置中に抜歯が必要だと判断する場合がありますから、処置の時間帯につながる電話番号を聞いておくことも重要です。アメリカでは訴訟が多いため、Dr.Brookは飼い主に連絡がつかない場合、抜歯せずに動物を覚醒させ、改めて予定を組み直すそうです。

2) 歯科レントゲン検査

動物病院において歯科レントゲンの普及率はまだまだ低いですが、抜歯する場合は抜歯前と後で歯科レントゲンを撮ることが推奨されます。抜歯前検査から歯根の異常や骨折のリスクなどの評価が可能ですし、抜歯後の検査では残根がないかどうかの確認ができます(図1、2)。

3) 疼痛管理

抜歯は中程度から重度の痛みを伴う外科的処置

であるため、オピオイド・非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)・局所麻酔等を組み合わせたマルチモーダルな疼痛管理が理想的です。局所疼痛管理に関しては前回(2020年7月号)詳しくお話していますので、ぜひ参考にしてください。

4) 抜歯と歯肉縫合

具体的な抜歯法は後述します。

5) 抜歯後の注意点を伝える

抜歯後2週間はドライフードの給餌を控えてもらうように伝えます。ウェットフードに変えるか、今までのドライフードをふやかしてから与えるように指示してください。抜歯した場所以外の歯は処置の次の日からできるだけ歯ブラシを使用したホームケアをしてもらいましょう。歯ブラシが難しくても、デンタルシート・ペースト・サプリメント等何らかのアプローチはしてもらいたいです。

※NJKは、みなさんで作る雑誌です。症例紹介、ご質問、ご意見をお寄せください。